

学校訪問シリーズ 38

由布市立由布川小学校から学ぶ

学校経営から学ぶ

学校の教育目標「かしこさ、やさしさ、たくましさの花咲く由布川っ子の育成 ～平和を愛する子～」を達成するため、育成を目指す（教科横断的な）資質・能力を「自律心・判断力」と定めています。そして、授業改善推進チーム、主体的行動者育成チーム・教育相談チームの3チームと部会別研究（3研究部）が連動し、「三つの資質・能力（3本柱）」の育成を組織的、計画的に行っています。

授業から学ぶ

本校は、本校の子どもの実態や学力調査等の分析から授業改善の重点を、①つけたい力を明確にした授業プラン（「めあて」と「ふり返り」） ②対話を用いて課題解決していく学習過程の工夫（対話力・表現力）として、学校評価や校内研究組織と連動させながら取り組んでいます。

特に、対話力の育成については、話すこと、聞くこと、話し合うことの3観点の系統表をつくり、各学年毎に明確なゴールを決めて、教科横断的に取り組んでいます（右図参照）。

今回参観した授業においても、ペアで話し合ったり、ロイロノートで自分の考えを伝え合う等、対話を用いて共同的に課題を解決していました。

今後は、子どもどうしが学び合う際の教師の立ち位置は、全体を俯瞰的に見ることで、それぞれのグループの良さや進捗について形成的な評価を行い、次への活動につなげるような指示があると良いと思いました。



NO.259 2022年10月 由布市立由布川小学校

判断力

多くの情報を収集し、いろいろな友達と話し合うと、自分の考えが定まってくる。

対話力の育成（案）

	話すこと	聞くこと	話し合うこと
低学年	相手を見て順序よく話す	話し手を見て、集中して聞く	話題に沿って話し合う
中学年	相手に伝わるように、筋道を立てて話す。	話しの中心に気を付けて聞く	友だちと同じところやちがいを考えて話し合う
高学年	自分の考えが伝わるように、表現を工夫して話す。	考えを比較しながら、自分の考えをまとめる	目的や条件に応じて、計画的に話し合う

《学年ごとの発達段階・系統表に基づいた指導のポイント》

<話すこと>

低学年のゴール: 相手を見て順序よく話す	ポイント①	ポイント②	ポイント③
相手の方を見ながら話す。	4冊1冊を意識して話す。(「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どのように」)	4冊1冊を意識して話す。	したことの順番を意識して話す。(まず、次に、そして、最後に)
中学年のゴール: 相手に伝わるように、筋道を立てて話す。	理由や例を挙げながら話す。	話の中心や話す場面を意識する。	言葉の抑揚や強弱、間の取り方を意識する。
高学年のゴール: 自分の考えが伝わるように、表現を工夫して話す。	事実と感想、意見を区別する。	目的や意図、話題に沿って話す。	資料を用いながら話す。

<聞くこと>

低学年のゴール: 話し手を見て、集中して聞く	ポイント①	ポイント②	ポイント③
相手の方を見ながら聞く。	最後まで話を聞く。	相手の話を反応しながら聞く。	
中学年のゴール: 話しの中心に気を付けて聞く。			



NO.257 2022年10月 由布市立由布川小学校

相手意識

相手にわかるように説明する。相手の考えを共感的に聴く。相手を意識すると理解できる。



NO.258 2022年10月 由布市立由布川小学校

友達から学ぶ

「同じだね」「順序が違う」「そんな考えもあったんだ」共通点や違いがわかる。



NO.256 2022年10月 由布市立由布川小学校

表現力

面積の答えは一つだけど、やり方は何通りもある。説明の仕方は一人一人違う。